

おお大勝利

平成 21 年度山東サッカー部報第 10 号 (7 月 7 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

新人チーム 公式戦初勝利！！

先日 7 月 4 日 (土)、鶴岡東高校サッカー場にて県リーグ第 5 節 (山東にとっては 4 戦目) の鶴岡工業戦が行われました。山東は、新人チームになってからすでに公式戦で 2 試合を消化していますが、いずれも甘さがあり、黒星。新人チームになってから怒涛の連敗を喫した昨年の記憶が蘇りつつありましたので、早く勝利が欲しいと焦りを感じつつ、鶴岡に乗り込みました。相手の鶴岡工業は県総体でも当たった、本当に「よく当たる相手」。

雨上がりのピッチで水溜りが多少残りつつも、晴天になり、ボールはしっかり転がるピッチ状況。試合が始まるとまずペースを握ったのは鶴工。左サイドから攻め込むことが多い。開始 3 分、左サイドから鶴工の選手が抜け出し、センターリング。そのボールが山東 DF の前でイレギュラーバウンドし、クリアのために振った山東 DF の足に当たったボールは、ゴールニアサイドに。GK の**泰仁**が必死に飛びこむも、ゴールイン。早すぎる失点にムードが悪くなるも、切り替えの声ピッチ内外からかかる。鶴工は力のあるチームだけに、若いチームは先制し敵を焦らせ勝利をものにしたかったが、そんな都合の良い訳にはいかない。逆転を信じたいが、その力はあるか、顧問も半信半疑。

とはいえ、FW の**松永**と**藤盛**の 2 年生コンビが敵 DF とのマッチアップで負けてはならず、起点を作って他人を活かす or 自分で仕掛けてシュートを狙う展開に、期待を抱かせる。また、左アウトサイド MF の**嶋貫**がドリブルで縦に抜け出す得意の形からシュートを放ち、コースが甘かったため GK に弾かれるも、これまた期待できる形。ただ、敵の左右のアウトサイド MF も縦の突進力があり、一進一退。右アウトサイド DF で先発したメッシこと**祐介** (not 裕介) らが落ち着いて撥ね返すので、徐々に山東ペースか。

そんな中、前半の後半、右サイドでチャンスを作った藤盛のシュートが流れ、それを詰めた松永が同点ゴール。そして！柔らかなボールタッチから敵 DF ラインを抜け出した藤盛が、松永へパス。松永は GK をかわし、逆転ゴール。そしてそして！！松永のシュートを嶋貫が詰め、前半終わって 1-3。上の文章だと、2、3 人の個人力だけでひっくり返したようですが、右アウトサイド MF の**賢祐**の鋭い突破や献身的なディフェンス、ボランチ**大久保**の正確なパスと鋭い出足によるボール奪取などがあり、盛り返した若き山東。初勝利に向けた貪欲なプレーに顧問も目を細めつつ、ハーフタイムでは「守りきる力などないのだから、攻め続ける意識で」と選手を送り出し、後半を迎える。

後半、鶴工は 1、2 年生の攻撃的な選手を 2 人投入。交替選手の力だけではないが、やはり攻撃力に勝る鶴工の攻撃に、山東は守勢に回らざるを得ない。すると後半序盤、立て続けに失点し、3-3 の同点に。ハーフタイムでは「早々に失点すると勢いで同点にまでなってしまう (さらに失点する) ことが大いにあるので、気をつけよう」と述べた言葉

が、現実のものに。しかも、内容的にも押されまくった挙句の失点だけに、とつても悪〜い印象。中盤の運動量不足、DFラインの押し上げの遅さ等で、中盤でボールを拾えなくなり、またボールへのプレスが遅れるため、敵の前線の選手に良いボールを入れさせてしまい、DFラインが明らかに苦しい。途中交代の敵の左アウトサイドMF（1年）はスピードあふれ、まさに「止められない」。「逆転されてしまうのでは・・・」と誰しも思う流れには逆らえなかった。さらに一点追加され、後半の前半での3失点。スコアは3-4。

最悪の展開に、顧問は茫然自失。「これが悪い」とか具体的に分かる理由などの以前に単純に言って全般的な力が足りないんだな〜、などと心が折れつつ感じていましたが、**選手は諦めてはいなかった！**中盤での力強さが買われ、左アウトサイドDFからボランチに後半途中からコンバートされた**市村**が守備に攻撃に機能し、山東は落ち着きを取り戻す。すると後半の後半、またしても藤盛、松永の両FWが本領を發揮し、2得点。途中交代で左アウトサイドDFに入った**裕也**もそつなく仕事をこなし、結局5-4で勝利。早くもというか、Yリーグ2試合目で初勝利。選手の諦めない気持ちに、うれしい驚きを感じました。

山形に帰ってきて解散のミーティングを行った際には、腰の治療のため運動をしばらく控えている**松本**が、初めての試みとして紙に書いた試合の分析結果を読み上げる。ピッチに立つ選手だけではなく、ピッチ外の選手も一つの目標を共有して行動できることに、山東サッカー部の良き伝統を感じずにはいられませんでした。初勝利をどのように次につなげることができるか、これからが見ものでしょう。